

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52105	畜産関係事務費		担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	1	畜産総務費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備
	根拠計画						
実施計画事業	畜産関係事務費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸
	どういった状態にしたいのか(意図)	・高山市の畜産振興の向上		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨畜産振興会の活動支援、畜産委員への報酬等		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・畜産関係各種団体委員への謝礼 ・飛騨畜産振興会の負担金(飛騨3市1村及びJAなどで構成)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	畜産関係各種団体委員活動謝礼	件	目標値	33	33	33
				実績値	33	33	33
	成果指標	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
				実績値	3,398	3,304	3,303
	算出根拠等			達成率(%)	89	85	83
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	943	1,210	1,031	
	受益者負担(使用料・負担金等)			36	39	40	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			30	30	30	
	一般財源			877	1,141	961	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	3,727	4,783	4,278	
	受益者	畜産農家	(B)	253	253	241	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・飛騨牛ブランドの確立は市民全体にとって重要である。 ・後継者が減っていく中で畜産振興のためにも重要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・飛騨地域としての畜産振興活動のため、飛騨畜産振興会への市負担金は不可欠である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・飛騨地域としての畜産振興活動のため、飛騨畜産振興会への市負担金は不可欠である。 ・畜産関係団体の役員には、各種書類の取りまとめを依頼している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・飛騨畜産振興会への負担金により飛騨地域としての畜産振興活動が効率的に行われている。 ・畜産関係団体の役員には、各種書類の取りまとめを依頼しており、効率的な運営が図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・飛騨畜産振興会により、広域的な施策の推進が図られている。 ・畜産関係団体の役員により、個々の畜産農家に周知が図られている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・畜産を取り巻く情勢的確な把握及び農業者への情報提供・指導 ・畜産アドバイザーの効果を検証
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・畜産アドバイザーの効果を検証する必要がある。
----------------------	-------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。
------------------	--------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・畜産委員、団体からの意見を踏まえ、効果的な事業実施に努める必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52215	後継者等肉用牛貸付事業費		担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費		施策	3	あらたな担い手の確保
	根拠計画						
実施計画事業	後継者等肉用牛貸付事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178 戸
	どういった状態にしたいのか(意図)	・飛騨牛繁殖基盤の確保並びに拡大を行い畜産の安定経営を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・肉用繁殖雌牛の5年間無償貸付		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・貸付頭数 42頭					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
				実績値	3,398	3,304	3,303
	算出根拠等			達成率(%)	89	85	83
		成果指標	貸付実施頭数	頭	目標値	75	75
	実績値				60	70	42
	算出根拠等			達成率(%)	80	93	56
				目標値			
	実績値						
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
	実績値						
	算出根拠等			達成率(%)			
		補足事項					
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	25,000	29,000	18,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			25,000	29,000	18,000	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	129,534	150,259	104,046	
	受益者	肉用牛繁殖農家	(B)	193	193	173	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・小規模・零細な農家にとって、繁殖雌牛の育成は大きな出費となるため、5年間の猶予は助かる。また大規模農家にとっては、他に有利な貸付制度が有り、利用が少ない。(月賦返済の要望も有り)
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・国の特別導入事業を基礎にして、国・県・市で基金を積立てしてきた。国の事業は廃止となり平成23年度で返還を終了し、現在は県・市の積立てた基金で運用している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・高齢化や、病気が等における後継者不足により、繁殖農家戸数が急激に減少する中、繁殖雌牛飼養頭数の減少を低率に食い止めている。(H25→H26 戸数▲9.3% 頭数▲0.03%)
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・数年前に事業の見直しを行い、現在は、県と市の積立てた基金を運用している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・繁殖雌牛の保留や導入に効果があり、零細な農家にとっては県外導入や更新等でも手軽に利用できる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・無利子での肉用牛導入費用の貸付だが、一括返済を不安に思う農家がある。分割での返済を受け付ける方策はないか。 ・高齢化や後継者不足で、畜産農家が減少している。 ・国の補助金が廃止になり、県の補助金と市の積立て基金を造成し対応している。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・繁殖農家の経営にとって有効な事業であるため内容等の見直しを視野に入れながら継続する。
------------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・繁殖農家の経営にとって有効な事業であるため内容等の見直しを視野に入れながら継続する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52220	家畜防疫衛生事業費		担当課	農政部 畜産課	内線	2237
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまごして
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費		施策	2	安全で安心な畜産物の供給
	根拠計画						
実施計画事業	家畜防疫衛生事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	231 戸
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・家畜伝染病の発生予防に努め、低コストで高品質な畜産物の安全安心な生産・供給による畜産経営の向上を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・伝染病調査及び発生予防 ・法定家畜伝染病予防接種補助 ・家畜伝染病予防消毒薬備蓄及び配布		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・伝染病浸潤状況の調査 ・法定家畜伝染病(鶏ニューカッスル病)予防接種補助 ・家畜伝染病対策マニュアルの作成及び周知					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	法定家畜伝染病予防接種(鶏ニューカッスル病)	羽	目標値	153,000	153,000	150,000
				実績値	156,300	131,630	90,000
	算出根拠等			達成率(%)	102	86	60
	活動指標	県外導入豚特定疾病検査(オーエスキ一病)	頭	目標値	130	130	130
				実績値	10	10	35
	算出根拠等			達成率(%)	8	8	27
	活動指標	届出伝染病(牛白血病)抗体検査	頭	目標値	2,400	2,400	2,400
				実績値	1,550	1,380	1,447
	算出根拠等			達成率(%)	65	58	60
	成果指標	法定伝染病発生数	件	目標値	0	0	0
				実績値	0	0	0
	算出根拠等			達成率(%)			
	成果指標	肉用牛飼養頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
			実績値	3,398	3,304	3,303	
算出根拠等			達成率(%)	89	85	83	
			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	1,153	1,228	1,140	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			1,153	1,228	1,140	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	4,557	4,854	4,730		
	受益者	(B)	253	253	241		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	安全で安心な畜産物の供給が望まれておりニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・自衛防疫の観点から、生産者自らが防疫措置をとる必要性はあるが、市及び飛騨地域全体が統一した防疫措置を図る重要性があり、市が主体となって防疫事業を図ることは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	大きな伝染病等の発生がみられず防疫事業による予防効果は上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・法律上の検査を含め、生産者自らの防疫措置のための負担が伴っており妥当なコストである。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・各種防疫事業を行うことにより家畜伝染病の発生予防効果は高く、安心安全な畜産物ブランドの向上に効果があり、畜産業に限らず、観光・商業等にも大きく効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・自衛防疫と市全体(飛騨地域)での防疫措置とを明確にしコスト削減を図りつつ、効果的な防疫事業を行う必要がある。 ・緊急時の防疫対策の備蓄等を検討する必要性あり。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・今後も引き続き、予防接種の推進、伝染病の浸潤調査を実施し防疫措置を講じていく。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・伝染病予防にかかる生産者の自衛防疫の徹底や普及啓発及び飛騨地域全体での統一した防疫措置の推進 ・届出伝染病(牛白血病)抗体検査の浸潤状況に基づき、陽性牛の淘汰等の指導措置
------------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・今後も引き続き、予防接種の推進、伝染病の浸潤調査を実施し防疫措置を講じていく。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52225	家畜人工授精事業費		担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	5	農林水産事業		分野	4	畜産業
	項	2	畜産事業		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備
	根拠計画						
実施計画事業	家畜人工授精事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖・酪農)	対象者数	217 戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	・優良子牛の生産、増頭により改良増産を推進し、農家の経営判定を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・家畜改良、増頭の推進 ・和牛、乳牛の家畜人工授精 ・和牛、乳牛の受精卵移植・採卵		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	人工授精	3,188件				
		受精卵移植	134件				
		採卵	52件				
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
				実績値	3,398	3,304	3,303
		算出根拠等		達成率(%)	89	85	83
	活動指標	家畜人工授精実施件数	件	目標値	3,000	3,000	3,000
				実績値	2,934	3,065	3,188
		算出根拠等		達成率(%)	98	102	106
	活動指標	家畜受精卵移植実施件数	件	目標値	80	80	80
				実績値	28	27	134
		算出根拠等		達成率(%)	35	34	168
	活動指標	採卵実施件数	件	目標値	40	40	40
				実績値	29	14	52
算出根拠等			達成率(%)	73	35	130	
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
飼育頭数は微減傾向にあるが、人工授精・受精卵移植件数は横ばいである。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	23,955	23,675	24,424	
	受益者負担(使用料・負担金等)			6,075	5,576	7,383	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			17,880	18,099	17,041	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	99,813	98,646	112,553	
	受益者	畜産農家(繁殖・酪農)	(B)	240	240	217	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・業務委託先を含め優良牛の生産に必要な専門技術と知識を有する技術者が農家を指導することによって「飛騨牛」ブランドの維持を続けることができた。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・業務委託先も含め技術者が指導的立場として業務を実施したことで「飛騨牛」ブランドの躍進につながった。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・優良牛の生産によって子牛の販売価格が全国トップで推移した。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	内容を精査し、効率化やコスト削減を実施した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・優良牛の生産に努めることで「飛騨牛」ブランドを推進した。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・生産者の収入増と「飛騨牛」ブランドの継続・躍進のためにも今後も業務を続けていく必要がある。
--	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・委託事務の拡大を図る必要がある。
----------------------	-------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・既存の委託先との協議を進め、直営地区の委託化を検討しながら、更なる飛騨牛のブランド化や受胎率の向上を図る。
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・既存の委託先との協議を進め、直営地区の委託化を検討しながら、更なる飛騨牛のブランド化や受胎率の向上を図る。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・委託事務の拡大を図る必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52227	繁殖牛舎建設支援事業			担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「もぎわい」のあるまちをめざして	
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業	
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目	2	畜産振興費		施策	3	畜産関連施設の整備	
	根拠計画							
実施計画事業	繁殖牛舎建設支援事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178 戸
	どういった状態にしたいのか(意図)	肉用繁殖雌牛飼育頭数4,000頭を目指すため、飛騨牛の地元畜産率の向上と飛騨牛ブランドの拡大を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	牛舎建設等を行う生産農家、新規就農者、農事組合法人又は農業生産法人に対し補助する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	繁殖牛舎 1棟 堆肥舎 1棟					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	肉用牛飼育頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
				実績値	3,398	3,304	3,303
				算出根拠等	達成率(%)	89	85
	活動指標	繁殖牛舎建設実績	棟	目標値	3	3	3
				実績値	2	3	1
				算出根拠等	達成率(%)	67	100
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	10,000	15,000	7,500	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			10,000	15,000	7,500	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	5,000,000	5,000,000	7,500,000		
	受益者	(B)	2	3	1		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・継続して年間数件のニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・肉用繁殖雌牛増頭のために平成23年度に立ち上げた新規事業であり、他の事業主体が実施する可能性は低い。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・毎年度、数件の実績があり繁殖雌牛頭数の減少に歯止めがかかっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・増頭対策にあたり、初期投資の軽減を図ることは有効であり、増頭対策に効率的である。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	B	・毎年度、数件の実績があり繁殖雌牛頭数の減少に歯止めがかかっている。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・制度の周知を図り、利用促進を行う必要がある。 ・また、計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実にを行うよう指導する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実にを行うよう指導していく。
------------------	--------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・積極的に事業のPRを行い、畜産農家の投資を軽減し、繁殖雌牛の増頭を促進する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52230	家畜改良推進事業費		担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費		施策	2	安全で安心な畜産物の供給
	根拠計画						
実施計画事業	家畜改良推進事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・家畜の改良度や改良の方向性の確認のため各種品評会を開催することにより、畜産物のブランド化及び、農家の意欲向上による増産を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・各種品評会の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・市畜産共進会経費等家畜改良事業 ・全国和牛能力共進会負担金(飛騨畜産振興会負担金)					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	肉用牛繁殖雌牛飼育頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
				実績値	3,398	3,304	3,303
		算出根拠等		達成率(%)	89	85	83
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,533	928	752	
	受益者負担(使用料・負担金等)			424	424	182	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			4,109	504	570	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	17,917	3,668	3,120	
	受益者	畜産農家	(B)	253	253	241	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・飛騨牛ブランドを始めとするブランド確立を図り「安全・安心」のPRが市民にとって重要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会への市負担は不可欠である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	・飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会への市負担は不可欠である。 ・畜産物のブランド化及び農家の意欲向上による増産がある程度上がっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・畜産振興会への負担金により飛騨地域としての畜産振興活動が効率的に行われている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・市畜産共進会等の開催により、畜産農家相互の意見交換や家畜改良の方向性等を確認することができた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・畜産を取り巻く情勢的的確な把握及び農業者への情報提供・指導
---------------------------------------	--------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・全国的なブランド牛としての地位を確立するため、各種品評会の機会を捉え、市内外への積極的なPR・情報発信を図る必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・県・他市村・JA等関係機関と連携を密にし、各種品評会を実施し更なるブランド化を図る。
------------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・県・他市村・JA等関係機関と連携を密にし、各種品評会を実施し更なるブランド化を図る。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・全国的なブランド牛としての地位を確立するため、各種品評会の機会を捉え、市内外への積極的なPR・情報発信を図る必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52235	牧場放牧事業費		担当課	農政部 畜産課	内線	2237
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをまぎして
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備
	根拠計画						
実施計画事業	牧場放牧事業費						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖)	対象者数	175 戸
	どういった状態にしたいのか(意図)	・夏山冬里方式の飼養管理として放牧推進を図り、他農家との複合経営の確立、飛騨牛の低コスト生産及び増産を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・放牧場の整備、充実を図るとともに、適正な牧場利用調整、推進を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・放牧延べ頭数 47,346頭					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	放牧延べ頭数	頭	目標値	72,000	72,000	72,000
				実績値	59,134	59,492	47,346
		算出根拠等		達成率(%)	82	83	66
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
				実績値			
				達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	17,777	18,526	18,792	
	受益者負担(使用料・負担金等)			8,985	8,924	7,102	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			8,792	9,602	11,690	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	92,109	95,990	108,624	
	受益者	肉用牛繁殖農家	(B)	193	193	173	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・低コスト生産畜産労働力の軽減につながりニーズが高く、飛騨牛素牛生産が推進された。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・放牧における防疫・衛生対策が迅速に行える。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・牧場の現況に応じた放牧頭数の調整を行い、堆肥・肥料・牧草種子散布等により放牧場を活性化し放牧頭数の増頭を図っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・必要最小限のコストで事業が運営されている。また、受益者負担の見直しが必要とされる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・夏山冬里方式により、畜産農家の負担が軽減され、更に飛騨牛の安定生産・飛騨牛ブランドの向上が図られている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることを必要なのかを記入)	・放牧場施設及び草地の老朽化が目立っており、順次整備していく事により、放牧利用が推進され繁殖牛の増頭及び安定した子牛生産が見込まれ飛騨牛ブランドの躍進が期待される。
--------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・指定管理者制度の導入に向け検討していく必要がある。 ・県営牧場の手数料引き下げについて県に要望する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・指定管理者制度も含めた牧場施設・草地の維持管理方法の検討
------------------	-------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・牧場の管理方法と、牧場における迅速な家畜伝染病防疫体制の強化					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・指定管理者制度の導入に向け検討していく必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52245	優良飛騨牛固定推進事業補助金		担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちわめざして
	款	5	農林水産業費		分野	4	畜産業
	項	2	畜産業費		基本施策	1	安定した畜産経営環境を整備する
	目	2	畜産振興費		施策	1	競争力のある生産基盤の整備
	根拠計画						
実施計画事業	優良飛騨牛固定推進事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、酪農)	対象者数	204 戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	・遺伝的に良質な牛肉を生産する能力の高い繁殖牛を保留又は導入する。 ・優良な乳用牛の保留又は導入による酪農経営の強化。		
概要	事業の実手法(手段)	・優良飛騨牛、優良乳用牛増頭に対する補助		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・優良雌牛保留対策 116頭 ・優良飛騨牛増頭推進 50頭 ・優良乳用牛保留・導入対策 30頭					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	肉用牛繁殖雌牛・乳用牛雌牛飼養頭	頭	目標値	4,900	4,900	4,900
		算出根拠等		実績値	4,712	4,599	4,577
	成果指標	優良雌牛保留・導入頭数	頭	目標値	230	230	230
		算出根拠等		実績値	190	192	196
	成果指標			達成率(%)	83	83	85
		算出根拠等					
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	成果指標			達成率(%)			
		算出根拠等					
	成果指標			目標値			
		算出根拠等		実績値			
	成果指標			達成率(%)			
算出根拠等							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	31,690	32,446	33,194	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)		12,816	13,546	13,572	
	一般財源			18,874	18,900	19,622	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	146,037	150,912	180,402		
コスト指標	受益者	肉用牛繁殖農家・酪農家	(B)	217	215	184	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・優良な高能力牛の保留導入により、肉用牛繁殖経営及び乳用牛飼育農家の経営基盤の強化による畜産経営の安定を図るための事業であり、要望は多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・優良雌牛保留対策事業については、H25年度より畜産協会が事業主体となり県と市が補助をしている。増頭推進、乳用牛補助は市単事業。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・高齢化や病気、怪我等における後継者不足により、繁殖の農家戸数が減少する中、繁殖雌牛飼育頭数の減少を低率に食い止めている。(H25⇒H26 戸数▲9.3% 頭数▲0.03%)
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・優良雌牛事業は、制度変更を経て、農家に本事業が浸透している。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・繁殖雌牛育成に係る畜産経費は大きな負担であるが、本事業により飛騨牛のブランド強化、頭数・経営維持に有効である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・条件に当てはまる優秀な雌子牛の掘り起し、さらなる保留・導入の推進。 ・高齢化や後継者不足による畜産農家が毎年減少。
--	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・飼料及び関連資材価格の高止まりによる畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・条件に当てはまる優秀な雌子牛の掘り起し、さらなる保留・導入の推進。 ・飼料及び関連資材価格の高止まりによる畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・飼料及び関連資材価格の高止まりによる畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52247	飛騨牛生産経営安定推進事業補助金	担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	5 農林水産業費		分野	4 畜産業	
	項	2 畜産業費		基本施策	1 安定した畜産経営環境を整備する	
	目	2 畜産振興費		施策	1 競争力のある生産基盤の整備	
	根拠計画					
実施計画事業	飛騨牛生産経営安定推進事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178 戸
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・子牛生産における事故は繁殖経営に大きな打撃を与えるため通常、飛騨農業共済事務組合が取り扱う家畜共済に加入するが、共済対象外の事故も発生し大きな打撃になることから、そういった事故に備えるように組合員相互で互助制度を行うための基金を造成するので、その基金造成に対し一部を助成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・高山市和牛改良組合が実施する家畜共済対象外の流死産等の事故(早期の流死産等)に対する互助のための基金造成に対して一部助成する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・互助事業加入頭数 3, 213頭					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	肉用牛繁殖雌牛飼養頭数	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
				実績値	3,398	3,304	3,303
	算出根拠等	達成率(%)	89	85	83		
	成果指標	互助事業加入頭数	頭	目標値	3,360	3,600	3,600
				実績値	3,351	3,284	3,213
	算出根拠等	達成率(%)	100	91	89		
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
実績値							
算出根拠等	目標値						
	実績値						
算出根拠等	目標値						
	実績値						
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 543	647	556		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		543	647	556		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 2,813	3,352	3,214		
	受益者	肉用牛繁殖農家数	(B) 193	193	173		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・流産等の事故は、毎年1~2%程度発生しており、農家の経営に大きな打撃を与えている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・和牛改良組合が実施する、農業共済事業で補填されない流死産等の子牛事故に備えた互助事業のための基金造成にちび補助することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・高齢化や病気、怪我等における後継者不足により、繁殖の農家戸数が減少する中、繁殖雌牛飼育頭数の減少を低率に食い止めている。(H25⇒H26 戸数▲9.3% 頭数▲0.03%)
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・農家負担50%、高山市補助25%、JAから25%補助を受けている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・高山市和牛改良組合が実施する、家畜共済で補填されない流死産等の子牛事故に対する互助のための基金造成に対して一部(1/4)助成し、互助事業を援助することにより、繁殖経営の打撃を和らげるのに効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・高齢化や後継者不足で、畜産農家が毎年減少している。
---------------------------------------	----------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・従来通り継続実施。
----------------------	------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・従来通り継続実施。
------------------	------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・従来通り継続実施					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	52250	飛騨食肉センター運営整備事業費	担当課	農政部 畜産課	内線	2239
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	4 「にぎわい」のあるまちをめざして	
	款	5 農林水産業費		分野	4 畜産業	
	項	2 畜産業費		基本施策	1 安定した畜産経営を整備する	
	目	2 畜産振興費		施策	3 畜産関連施設の整備	
	根拠計画					
実施計画事業	新飛騨食肉センター運営整備事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸
	どういった状態にしたいのか(意図)	畜産の振興及び安全・安心な食肉の安定供給		
概要	事業の実施手法(手段)	・危険部位焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に係る地元負担金(債務負担) ・豚と畜ライン停止による近隣と畜場への輸送費等の助成 ・畜部門運営経費の一部助成		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・危険部位焼却に係る経費の一部助成(BSE対策) ・食肉センター建設に係る地元負担金(債務負担) ・豚と畜ライン停止による近隣と畜場への輸送費等の助成 ・畜部門運営経費の一部助成				
	指標名					
	成果指標	肥育牛の飼育頭数	単位	頭		
			目標・実績	目標値	6,500	6,500
		実績値	5,924	6,105	5,966	
		算出根拠等	達成率(%)	91	94	92
	成果指標	肉豚出荷頭数	単位	頭		
			目標・実績	目標値	6,200	6,200
		実績値	5,812	5,779	6,095	
		算出根拠等	達成率(%)	94	93	98
			目標値			
			実績値			
		算出根拠等	達成率(%)			
			目標値			
			実績値			
	算出根拠等	達成率(%)				
補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
	歳出(千円)		(A) 66,157	65,632	67,011	
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		66,157	65,632	67,011	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 261,490	259,415	278,054		
	受益者	(B) 畜産農家	253	253	241	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・BSE対策など、安全安心な農畜産物を市民に供給することに対するニーズはとても高い。 ・販路拡大に対しても、高レベルの食肉衛生処理が重要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・大規模な他の産地と競争していくには、市村の補助が不可欠である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・食肉センターの健全な運営は、飛騨牛ブランドの確立や畜産振興に欠かせない。 ・BSE等の被害は確認されていない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・食肉センターに対し、安定的運営とともに効率化やコスト縮減を求めていく必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	・安全な食肉を提供するため、また販路拡大にあたって、高レベルの食肉衛生対策は有効である。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・食肉センターに対し、高レベルの食肉衛生対策を維持していただくとともに運営の効率化やコスト縮減を求めていく必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・センターの経営改善を促していく必要がある。
----------------------	------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・各種助成事業の継続実施 ・食肉センター運営委員会への出席
------------------	----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・各種助成事業の継続実施					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・センターの経営改善を促していく必要がある。					